



60th
ANNIVERSARY

Bouquet of Music



〈秋〉11.11 [土] 15:00開演
2023 (14:00開場)

指揮：大井駿 ヴァイオリン：三浦文彰

チャイコフスキー：ヴァイオリン協奏曲ニ長調作品35
ペルリオーズ：幻想交響曲作品14



〈冬〉2.3 [土] 15:00開演
2024 (14:00開場)

指揮：広上淳一 チェロ：鳥羽咲音

ショーベルト：「ロザムンデ」作品26序曲
チャイコフスキー：ロココの主題による変奏曲イ長調作品33
ショーマン：交響曲第3番変ホ長調作品97「ライン」

[会場] 広島国際会議場フェニックスホール
広島市中区中島町1-5(平和記念公園内)

料金(1回分) Ⓛ¥4,300(ペア¥6,500) Ⓜ¥3,300 Ⓝ¥2,300 (学生¥1,500)

※税込・全席指定 ※学生は小学生以上、25歳以下の学生が対象。要学生証。(広響事務局のみ取り扱い)

主催：広島市・公益財団法人広島市文化財団・公益社団法人広島交響楽協会・中国新聞社

協賛：株式会社花満・広島県医師会・広島市医師会



文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

ひろしま国際平和文化祭 応援イベント



音楽の花束
五楽章の交響曲と
チャイコフスキー協奏シリーズ

「名曲」——それは、ミューズ(音楽の女神)の世界に咲く多彩な花々。
名曲の数々を花束にしてお届けする年3回のシリーズ。
2023年度は注目の指揮者、ソリストと共に
5つの楽章からなる個性的な交響曲と
チャイコフスキーの3大協奏作品をおくりします。

お問い合わせ：広響事務局

Tel.082-532-3080[受付時間／平日 9:00～17:20]
<http://hirokyo.or.jp>



〈秋〉 2022年ひろしま国際平和文化祭での「次世代指揮者コンクール」で純粹な音楽への姿勢で感銘を与え、第1位に輝いた大井駿が登場。

ソリストはこれまで広響と共に演を重ねてきた実力と人気を備え第一線で活躍する三浦文彰。

チャイコフスキイとの共演は広響初となります。

まだベートーヴェンの没後3年という時代に書かれたベルリオーズの「幻想交響曲」は、

自身の恋愛体験を元に恋する人との出会いや田園の風景、果ては悪夢の世界まで描いた一大スペクタクル。

時代を変えた作品に大井がパッションあふれるタクトで挑みます。

指揮:大井駿 Shun Oi, Conductor

1993年、東京都出身。幼少期を鳥取市で過ごす。2022年、広島にておこなわれた第1回次世代指揮者コンクールにて優勝、ならびに細川賞を受賞。ザルツブルク・モーツアルテウム大学指揮科を卒業し、ヤマハ音楽奨学支援制度創設以来初となる指揮専攻奨学生として、同大学指揮科修士課程を修了。公益財団法人ロームミュージックファンデーション2023年度奨学生。指揮をブルーノ・ヴァイル、ヨハネス・カリツケ、イオン・マリンの各氏に師事。これまでに指揮者として、読売日本交響楽団、広島交響楽団、広島ウインドオーケストラ、モーツアルテウム管弦楽団、マイニンゲン宫廷楽団などのオーケストラと共に演奏。ピアニスト、古楽器奏者や通奏低音奏者としても活動しており、パリ地方音楽院ピアノ科、ミュンヘン国立音楽演劇大学古楽科、ザルツブルク・モーツアルテウム大学ピアノ科を卒業。ピアノを迫昭嘉、ジャック・ルヴィエ、アンドレアス・グロートホイゼン、古楽をラインハルト・ゲーベル、クライヴ・ブラウン、チェンバロとフォルティピアノをクリスティーネ・ショルンスハイムの各氏に師事。2020年には迎賓館赤坂離宮にて、皇室所蔵の1906年製エラールを用いたリサイタルをおこなう。

ヴァイオリン:三浦文彰 Fumiaki Miura, Violin

世界最難関と言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国際的に一躍脚光を浴びた。これまでロサンゼルス・フィル、ロイヤル・フィル、マリインスキー劇場管、チャイコフスキーシーンフォニーオーケストラ、ベルリン・ドイツ響、NDRエルプ・フィル、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、エーテボリ響などと共に共演。共演した指揮者には、ドゥダメル、ゲルギエフ、フェデセーエフ、ズーカーマンなどが挙げられる。リサイタルでは、ループルでのパリ・デビュー、ウィゴモアホールでのロンドン・デビューを果たす。国内では、大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽を演奏したことやTBS「情熱大陸」への出演も大きな話題に。18年からスタートしたサントリーホールARKクラシックスではアーティスティック・リーダーに就任。ロンドンの名門ロイヤル・フィルのアーティスト・イン・レジデンスも務める。22/23シーズンは、バルセロナ響、ウィーン室内管などと共に演し、ピリスとのデュオリサイタルも行う。また、ウィーン、パリではリサイタルを行い絶賛を博す。スペインのアリカンテ響には、指揮者として登場した。CDはエイベックスよりリリース。09年度 出光音楽賞受賞。22年「Forbes」Asiaにおいて「30 under 30(世界を変える30歳未満の30人)」に選出される。使用しているヴァイオリンは、宗次コレクションより貸与されたストラディヴァリウス 1704年製作 "Viotti"。

〈冬〉 鳥羽咲音は十代ながら深い音樂性を感じさせるリリカルな演奏が持ち味で、

これからますますの活躍が期待される注目したいチェリストのひとり。

「ロココの主題による変奏曲」での感性と技巧を披露します。

日本のオーケストラ界を牽引しながら多彩に活躍する名匠、広上淳一を迎えてのシンフォニーはシェーマン「ライン」。

妻クララと訪れたライン地方の情景に触発されて作曲されたというこの作品は

作曲年順ではシェーマン最後の交響曲となる名作で、まさに威風堂々の風格。サムライ広上がロマンの旗手の逸品と対峙します。

指揮:広上淳一 Junichi Hirokami, Conductor

東京生まれ。尾高惇忠にピアノと作曲を師事、音楽、音楽をすることを学ぶ。東京音楽大学指揮科卒業。26歳で第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクールに優勝。これまでノールショピング響、リンブルク響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、コロンバス響のポストを歴任。フランス国立管、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィル、ロンドン響、ウィーン響、サンクトペテルブルク・フィルなどへ客演を重ねる。オペラの分野でもシドニー歌劇場へのデビュー以来、数々のプロダクションを指揮。2008年より京都市交響楽団常任指揮者、14年よりミュージック・アドバイザーも兼務。15年には同団と共にサントリー音楽賞を受賞。20年より常任指揮者兼芸術顧問、14年間にわたり京都市交響楽団と共に歴史を築いた。現在、オーケストラ・アンサンブル金沢アーティスティック・リーダー、日本フィルハーモニー交響楽団フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)、札幌交響楽団友情指揮者、京都市交響楽団広上淳一、京都コンサートホール館長。また、東京音大指揮科教授として教育活動にも情熱を注いでいる。

チェロ:鳥羽咲音 Sakura Toba, Violoncello

2005年、音楽家の両親のもと、ウィーンで生まれる。現在18歳。2018年、モスクワ若い音楽家のためのコンクール「くるみ割り人形」弦楽器部門で銅賞を受賞するなど、数多くのコンクールで入賞、優勝。2019年3月に初のソロ・リサイタルを開催し、10月には沼尻竜典指揮／日本フィルとの共演でチャイコフスキイ「ロココの主題による変奏曲」をサントリーホールで演奏。以後、山田和樹指揮／横浜シンフォニエッタ、原田幸一郎指揮／富士山静岡響、大友直人指揮／群馬響などと共に演し、また東京・春・音楽祭をはじめ様々な場でのリサイタルなど、幅広く活躍している。2019年には世界に挑む若い音楽家とアスリートに贈られる第2回「服部真二音楽賞」を受賞した。使用楽器はアンネ=ゾフィー・ムター財団より貸与された1840年製のジャン=バティスト・ヴィヨーム。6歳から毛利伯郎氏に師事。アントニオ・メネセスやダーヴィド・ゲリンガス、イエンス=ペーター・マインツの各氏のマスタークラスにも参加した。公益財団法人江副記念リクルート財団第50回(2021年)奨学生および、公益財団法人ロームミュージックファンデーション2021、2022年度奨学生。2022年10月よりベルリン芸術大学にてマインツ氏に師事。

会場アクセス

演奏会へはできるだけ公共交通機関でお越しください。

JR広島駅から……

【路線バス】 所要時間:約20分

南口バスのりばA-3 ホームより、広島バス 24号線吉島営業所または吉島病院行「平和記念公園」下車すぐ

【市内電車】 所要時間:約25分

広島港①行「袋町」下車、徒歩約10分／西広島②、江波⑥、宮島行「原爆ドーム前」下車、徒歩約10分

【タクシー】 所要時間:約15分

